

世界
ジオ
パーク

鳥取砂丘



鳥取砂丘

とっとりさきゅう

目次

美しい季節の装い

鳥取砂丘の四季.....2
◆想い出の砂丘 谷口 ジロー.....2

山陰海岸国立公園

鳥取砂丘地域のプロフィール.....10
◆鳥取砂丘へのアクセス.....11

山陰海岸国立公園

鳥取砂丘地域索引図.....12

鳥取砂丘の案内役

鳥取砂丘パークインフォメーション.....14
鳥取砂丘ジオパークセンター／鳥取砂丘パークサービスセンター

砂丘観光の拠点

鳥取砂丘を訪ねる.....16
観光地としての鳥取砂丘／砂丘周辺の観光施設／砂丘銀座／サンドバルとっとり／鳥取砂丘こどもの国／砂丘温泉ふれあい会館／砂地で育つ鳥取の味
◆砂の美術館.....16
◆アリドーム.....17

砂丘入り口から鳥取砂丘の自然を探る

鳥取砂丘景観ガイド.....18

砂丘の不思議1

鳥取砂丘の動物.....20
渚のスナガニとイソコモリグモ／林縁のアリジコク／オアシスのハンミョウ／海浜性昆虫の桃源郷

砂丘の不思議2

鳥取砂丘の植物.....22
砂の動きと植物の関係／鳥取砂丘の代表的な植物／海に近い不安定帯の植物／内陸側の半安定帯から安定帯の植物／鳥取砂丘の価値
◆砂丘外から侵入・定着する植物.....24

砂丘の不思議3

鳥取砂丘の成り立ち.....25
日本を代表する海岸砂丘／地質ボーリング調査地点／砂丘の基盤岩地形と砂丘形成以前の堆積物／鳥取砂丘の成立史と今後の課題

砂丘の不思議4

砂に閉ざされた多鯨ヶ池.....28
多鯨ヶ池の特徴／多鯨ヶ池の水位変動／池に見られる動植物
◆宿院義般の功勞.....28
◆多鯨ヶ池のお種伝説.....29

景観を守る取り組み

鳥取砂丘の保全活動.....30

山陰海岸ジオパークの拠点施設

山陰海岸学習館で学ぶ.....32
◆海からの贈りもの.....32
◆岩美町立渚交流館.....33

岬完全縦走コース

羽尾岬自然探勝路を歩く.....34

波と海がつくり出すダイナミックな景観

浦富海岸で遊ぶ.....36
自然探勝路を歩こう／島めぐり遊覧船に乗ろう

山陰海岸の豊かな海が育む

海の中の生きもの図鑑.....38
海食地形と砂丘景観が織りなす

山陰海岸国立公園と海域公園.....40
◆竹野スノーケルセンター・ビジターセンター.....40
◆休暇村竹野海岸.....41

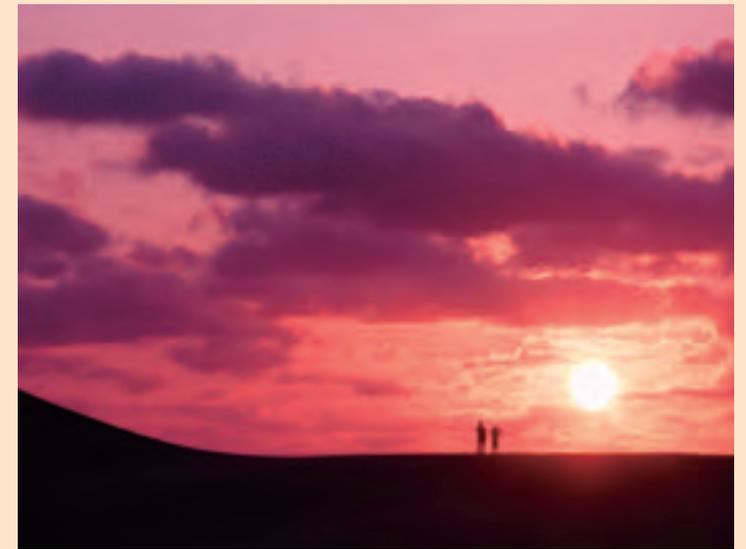
多くの文人に愛された砂丘

「鳥取砂丘」 文芸散歩.....42

砂丘と人々の暮らし

鳥取砂丘の歴史.....44
砂丘の地下に眠る遺跡／砂との戦い／砂丘と農業利用／砂丘の復元／山陰海岸国立公園指定の経緯

主要機関・交通機関・観光問い合わせ一覧.....48



鳥取砂丘 景観ガイド

目の前に広がる砂の海。
あるときは豪快に、
またあるときはおだやかに、
砂丘はその表情を変える。
砂と風と光が織りなす壮大なパノラマは、
訪れる人々に圧倒的なスケールで迫ってくる。
砂丘の入り口、
市営駐車場前の階段を上った場所から、
眼前に広がる砂の世界の魅力を探ってみよう。



1 砂の絶壁「馬の背」



さえぎるものがない砂の大地、その上に青い空と白い雲、その向こうに紺碧の日本海が広がっている。
正面に砂の高まりが見える。これが鳥取砂丘を代表する「馬の背」(第一砂丘列)で、標高約四十七メートルある。ひと頃、この馬の背の側面に落書きされ、社会問題になった。

2 砂丘のオアシス



馬の背の手前(内陸寄り)に、「オアシス」と呼ばれる凹地がある。雨が多いたまは水をたたえ、少なくなるとその水は涸れる。しかし、そこに流れ込む尻無川(湧き水)は年中絶えることはない。
このオアシスには、不思議なことに梅雨時期になるとカエルやオタマ

3 光のページェント



ジャコシ、ハイイロゲンゴロウなどが出沒する。いつも水があるわけではないのになぜ見られるのか、その生態はなぞに包まれている。

夏至を過ぎて前後二カ月間は、太陽が日本海に沈む。太陽が傾くと次第に空が色つき、水平線が燃え始める。そして、太陽が沈む直前、一本の光が海を渡って馬の背に突き刺さる。
気がつくやうに沖合いに漁り火が点々と灯っている。鳥取名物のイカ釣り漁船である。空が暗くなるにつれ、それは次第に明るくなり、そして数を増してゆく。

4 そよ風の足跡「風紋」



風紋は砂丘の東側や馬の背の凹み、砂丘西側など風が通る場所で見られる。
乾燥した砂に毎秒五〜十メートルの風が吹くと、一面さざ波のような見事な模様の風紋になる。弱い風でできた風紋は乱れが少なく、強くなるにつれ乱れが始め、足跡もすぐに消し去ってしまう。観察すると、ゆっくりではあるが風下側に動いていくのがわかる。そこには、生きていく砂丘があり、自然の息吹が感じられる。

5 火山噴火の痕跡「オアシスの手前、南西部に火山灰層が露出した場所がある。周囲の砂の色と違って、黄土色をした層があるはずだ。」

風が吹いた早朝、人影もまばらな砂丘に立って、神秘的な情景に出合えるはずだ。



で簡単に見分けられる。

この火山灰は、更新世の終り頃(約一〇万年〜二・五万年前)に降灰したことが判明しており、大部分が大山の大噴火によるものである。地質調査を行った研究者によって、大山火山などから飛来した火山灰を砂の間にはさんでいることが明らかにされ、これによって鳥取砂丘は火山灰降下以前の古砂丘と、以後の新砂丘に分けられている。

このように鳥取砂丘は全国の砂丘でも珍しく、砂丘の構造がよくわかるので貴重である。また、露出地周辺では土器や石器を見かけることもあり、興味深い。

6 砂丘を代表する「追後スリパチ」

南西約三百メートルのところにマツ林が見えるが、その海側に高低差約二十メートルの凹地がある。稜線から約三十二度の急斜面が、湾曲したすり鉢状の地形を形づけている。
ここ鳥取砂丘では、このような地形を「スリパチ」と呼んでおり、特にこの「追後スリパチ」は、その湾曲した形といい、大きさといい、鳥取砂丘を代表する。また、今は涸れ

7 砂なだれ「砂簾」



てしまったが、以前は豊富な湧き水があり、人々に親しまれていた。

砂簾は、スリパチの風下側の急斜面に見られる。飛砂が安定な角度(安息角とい約三二度)以上に積み上げられ、それが崩れたときにできる模様で、強風を伴った雨がおさまると、おだやかに乾燥していくとき、大規模な砂簾ができることがある。

8 疾風の足跡「砂柱」



一カ所が崩れ始めると次々と横につながら、ときに動きが止まる。風が砂の表面をなでると、また崩れが始まる。時を忘れ、静寂が支配する瞬間だ。

雨を伴う強風にさらされると、砂丘の表面は強い浸食作用を受ける。その結果、風下側に長い三角錐状の「砂柱」ができる。シルト(砂より粒子の細かい土)膜が風上側に形成され、風下側の砂を風食から守っている。

一般に、風が強くなるほど背が高く前後に長くなり、台風など長時間の暴風にさらされると、一面に豪快な砂柱を見ることが出来る。

9 たくましく生きる砂丘植物

砂丘は、砂漠とよく混同される。だが、年間降水量が約二千ミリメートルと、砂漠より明らかに水は豊富である。真夏などの雨の少ない時期でも、表面は乾いているように見えるが、五〜十センチメートル掘れば湿った砂の層が出現する。その水分を利用して種々の海浜植物が生育する。



ハマヒルガオ



ネコノシタ

春先にコウボウムギがとがった芽を出し、ハマニガナの黄色い花が砂丘を彩る。初夏にはハマボウフウの白い花に虫が集い、ハマヒルガオがピンクのじゅうたんを敷く。
真夏の炎天下にハマゴウが青紫色の花をつけ、海岸部にはネコノシタの黄色の花が連なる。秋風にウンランが香りを漂わせ、秋の夕陽にケカモノハシのひとむら影を伸ばす。足元に広がる生きものたちの営みにふれるのも砂丘での楽しみの一つだ。